

認知症グループホーム 認知症グループホームくつろぎ

1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定 員		前年度末 利用者数	令和 6 年度中の入退所状況						利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別						
					家庭 復帰	施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
9人		9人	2人	2人	0人	0人	1人	1人	3, 181人	96. 83%	9人
5年度	9人	9人	5人	5人	0人	2人	1人	2人	3, 109人	94. 38%	9人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	1人	1人	0人	0人	2人
女 性	0人	5人	0人	2人	0人	7人
計	0人	6人	1人	2人	0人	9人

（平均介護度2.6）

3 事業の実施状況

（1）専門的ケアの実施と個別支援

ア 4月定例会議において、認知症を正しく理解し根拠あるケアの重要性について研修を行った。また、認知症推進委員会を認知症チームケア推進委員会に改め認知症症状に対してチームで取り組む体制を整えた。

職員全員が「認知症チームケア推進研修」「自立支援総合研修～認知症・BPSDについて」などeラーニング受講しBPSD軽減のためチームケアについて学び、その手法に基づきアセスメント、実践、評価（症状と心の変化）などの分析から心への寄り添い方をチームで考えて行った。今年度はこのサイクルを委員会の中で展開・定着させていく準備を行った。

イ 「褒める」ことに重点をおき、喜びの感情による心理効果を期待し、表情（安心できる笑顔）や声のトーン、身体への触れ方など非言語コミュニケーションを組み合わせ自立した生活に結びつく意欲を引き出す支援を意識して行った。

ウ アセスメントによりできる能力が発揮できるよう、趣味（手作業・読書）、食の準備（食材の確認、処理、切る、煮込み、食器の準備、盛り付け、配膳）片付け、掃除、人の助けなど「できる自信」を生活リハビリ、QOLの向上、意思決定支援として取り組んだ。

エ 毎日日課として足と手を動かした体操、四字熟語、ことわざ、鳥取市内の地名の読み方（呼び方）など肺活量や腹式呼吸を活用した大きな声を出す訓練、思い出しながら読み上げる記憶持続訓練、上下肢機能持続等筋力の低下予防など頭と体の健康訓練に努めた。

新入居者には観察分析シートの活用など環境の変化による心理症状のダメージに配慮しこれまでの生活スタイルの継続に努めた。今年は2名の新入所があった。

平均介護度2.6 2月末まで入居者9人中3人が介護度4と重度化が見られた。

本人、家族の意向を尊重し住み慣れた場所での生活が継続できるよう、身体機能に合わせた環境整備や生活スタイルの変更、個々の疾患による異変サインの気づきなど主治医、看護師と連携を強化しグループホームでの生活の継続に努めた。

4月緊急時対応事前意向確認書の更新実施。

オ 位置情報確認システムGPS見守り機器を活用し、認知症状のある方でも一人で庭で過ごしたい方など自由な行動ができるような支援方法を行った。

(2) 職員の資質向上と人材育成

ア 毎月1回定例職員会議、5月事業計画会議、10月中間総括会議、3月総括会議実施。

5月職員会議において理念、基本方針、人権、コンプライアンス、事業計画、接遇、人権、個人情報、プライバシー保護、成年後見制度、職員倫理綱領、業務改善ヘルプライン、法令遵守等研修を実施し、認知症対応型施設としての専門的意識や入居者支援の取り組み方の方向性を示し周知を図った。

身体的拘束適正化研修 5月指針の確認、8月「高齢者への精神的ケア・入居者のこころのケア」、10月「身体拘束と悪性の社会理念について」の内容で研修を実施した。

虐待防止研修 5月厚生事業団虐待防止要綱確認、7月「虐待・不適切ケアを防ぐ」、8月虐待の芽チェックシートでケアの振り返り実施、11月「意思決定支援と虐待防止」の内容で研修を実施した。

人権研修 8月「第49回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会」1名出席。

認知症介護実践リーダー研修1名受講修了し「認知症の理解」について復命研修実施、認知症介護基礎研修1名受講修了、介護支援専門員研修「認知症の人とともによりよい日々と地域をつくろう」2名受講し復命研修実施、「認知症チームケア研修」7名視聴研修実施しチームケアの手法について学んだ。

口腔ケア研修「口腔内の見方と症状別の口腔ケア方法」1名受講。

(法人研修) 監督職員研修「10年後生き残る社会福祉法人」2名受講、「コミュニケーション・ハウレンソウの仕方」1名受講した。

OFF-JT研修として専門の外部講師がいつでも視聴できるオンライン動画を活用し、職員全員が会議の中で研修できるよう実施した。

イ オンライン動画視聴権利を購入し、興味のある分野を自由に視聴し知識や技術を学べる機会を設け支援した。

(3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

ア 運営推進会議2ヶ月毎に開催し、今年度(4月・6月・8月・10月・12月・2月)6回実施した。

今年度は毎回家族の参加もあり日々の活動状況を報告し生活を知って頂くきっかけになった。構成委員からの質問、助言を受け、運営に反映させていった。

今年に入って毎月始めた家族との行事交流会は(クリスマス、歌謡ショー、ひな祭りなど)地域交流の活動の一つとして運営推進会議の構成委員や第三者委員などから高評価を受けた。

イ 地域交流

- ・2週間に1度、移動スーパー「とくし丸」による買い物・移動図書館の活用
- ・末恒公民館祭への作品出展・鳥取市湯所「最勝院」による法話交流会(毎月)
- ・地域の菓子店(シャトレーゼ)、コンビニ、スーパー、道の駅などへ買い物
- ・ミュージックケア(毎月) ・赤ちゃんと親子の交流会(毎月)
- ・ハンドマッサージ(女性のみ) ・歌謡ショー ・紙芝居
- ・高校生インターンシップ2日間1名、社会福祉士実習生見学1名などボランティア、実習生を受け入れた。

ウ 毎月、一人ごとに生活の様子がわかるように写真を集め、各家族に「くつろぎ便り」として送り安心に繋げた。

エ 各災害に備え、災害用品の点検や火災想定訓練、地震想定訓練、緊急通報訓練(緊急連絡網・メール通信) 緊急時対応訓練(救急車要請)、近隣施設伏野つばき園との合同防災訓練、災害・感染BCP研修、シミュレーションを実施した。

オ 県営住宅末恒第一団地 高齢者見守りサービス協力 20件緊急メール受信

- ・人感センサー異常 18件(見守りサポーター住宅訪問無し)
- ・設置モニターの不備のための連絡 2件(業者対応)

(4) 経営基盤の確立

ア 既往による症状の進行など免れない入院、退所等により稼働率96.83%と目標稼働率97%を下回った。

本人や家族の変わらない環境で生活したいという意向が強く次の段階への移行が進まなかったケースや入所面接後の本人の入所理解が得られなかったケースなど空所期間が延びてしまった事が原因である。

日々の健康管理と異常の早期発見に努め、かかりつけ医の往診日には日常生活情報を加えトータル的な情報の共有に努めた。

令和7年2月より、開設当初よりかかりつけ医であったよしだ内科医院事業縮小のため新たな協力医療機関として在宅ケア訪問診療 漢方クリニックに変更となった。よしだ医院同様24時間365日体制に変わりはなく2月より月2回の往診がスタートした。

イ ・新型コロナウイルス罹患患者0名 ・インフルエンザ罹患患者0名

- ・インフルエンザワクチン予防接種9名(11月)・コロナワクチン予防接種4名(10月)
- ・感染症に関する研修(5月) マニュアル確認及び情報に関する研修会
- ・BCP感染症発生時のシミュレーション、机上研修(年2回実施)
- ・熱中症予防研修(6月) ・食中毒発生防止研修(7月) ・手洗い講習(7月)
- ・食中毒のためのチェックリスト確認(毎月)・救急救命研修 心肺蘇生(9月)
- ・施設で実践する感染症対策(12月) 県立中央病院感染管理者講師による研修
- ・ノロウイルス感染症研修 実地(12月)
- ・医療的ケア 喀痰吸引フォローアップ研修 動画(8月・1月)
- ・夜間救急要請時の連絡方法(4月)
- ・防災訓練 3施設(しらはま、つばさ、くつろぎ) 合同避難訓練(6月)
- ・消化器の使用方法(6月) ・BCP自然災害 机上研修(8月)
- ・夜間想定避難訓練 通報訓練 消化器訓練 (12月)
- ・不審者防護用具さすまたの使用方法 (1月)
- ・地震災害訓練 発生直後の安全行動 避難 誘導 救助訓練 (1月)

(5) 労働環境の整備

ア 月1回安全衛生委員会において、労働者の健康状態や労働環境について産業医へ報告し、助言を頂き改善に努めた。

また、ストレスチェックを実施し小集団のストレス課題や全体でのストレス把握など分析、産業医の助言をもとに安心して働きやすい職場環境作りのヒントとした。

5月ハラスメント研修を実施「ハラスメントは許しません」、2月アンガーマネジメント研修実施「介護現場でよくあるイライラ場面への対処法」など動画を活用し共感的心理負担の解消を図る研修を実施した。

イ 勤怠システムを活用した労働管理や位置情報確認システムGPS見守り機器など入居者の過剰な行動制限抑制や職員の精神的負担の軽減を目的にICTの効果的な活用を図った。

また、生産性の向上委員会を新設し、業務の効率化や入居者サービスの向上に向けた業務改善の体制作りを準備した。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
インターンシップ	11月	1人	2人
介護労働実習生見学	11月	2人	2人
計		3人	4人

(2) ボランティアの受入実績

- ・法話(最勝院)・ミュージックケア・赤ちゃん親子・ハンドマッサージ
- ・歌謡ショー (計: 27件 延べ68人)